



会員 上村 康之

## 日々の業務の中で感じた重要性

### はじめに

私は、今回大菅俊志弁護士（5月号掲載）の紹介により、思いがけず執筆の場を頂くことになった。弁護士登録をしてからまだ4か月半と経験も浅く、正直何を書くべきか迷うところではあるが、弁護士になってから、現在に至るまで、所長及び先輩弁護士のアドバイスの下、様々な書面の起案、依頼者との交渉、及び現地調査などを担当してきた。そうした中、日々の業務の中で弁護士にとって特に重要であると感じたことがあるので、以下、紹介したい。

### 推敲を繰り返すことの重要性

私は、この4か月半の間に、裁判所に提出する書面をはじめ、契約書や意見書など、様々な書面の起案をした。

書面によって相手を説得するためには、相手が一読して理解できるような内容、すなわち、必要なことが過不足なく記載されており、筋の通った内容でなければならない。

ところが、上記内容の書面を起案することは実のところ、非常に難しく、入所当時の私の起案した書面は、上記内容とはほど遠いものであったため、これまで、所長及び先輩弁護士のアドバイスの下、最低3回、時には10回ほど推敲することを繰り返し、少しずつ、上記のような理想の書面が書けるようになってきた。すなわち、自己の書面を何度も見直し、少しでも読みやすい内容となるよう推敲を繰り返す上で、少しずつではあるが、上記のような理想の書面に近づくことができるのであり、推敲を繰り返すことが、書面を作成する上で極めて重要であると実感した。

今後、少しでも読みやすい書面を作成するため、何度も推敲を繰り返すことを忘れずに実践していきたい。

### 幅広い知識の重要性

弁護士は、依頼者との交渉の際、その内容を即座に理解し、判断することを迫られることがしばしばあるが、

相手の話を理解するには、法律だけでなく、幅広い知識（教養）を習得することが重要である。

私は、以前、株券の引渡を求める相談を受けたことがあったが、株式の購入手続に関し、正確に理解していなかったことから、依頼者の相談内容を十分に把握できなかったことがあった。

相談内容を正確に理解できなければ、正しい判断をすることもできない以上、法律以外の幅広い知識を習得していることも弁護士にとっては極めて重要である。

もともと、一朝一夕で、上記知識を習得することは難しいため、今後、日々の業務及び生活の中で、様々な事項に対し興味、関心を抱くよう心掛けることによって、少しでも上記知識を習得するよう心掛けていきたい。

### 事件現場に行くことの重要性

私は、賃料増額請求または賃貸借契約の解約申入れをする際に、実際に、賃貸物件を見に行っていたことがある。もちろん、物件の概要については、賃貸借契約書や写真などの資料から、何となく分かるものの、賃貸物件の周囲には何があるのか、部屋はどの程度明るいかなど、具体的なイメージまでは、上記資料だけでは正確に掴むことはできない。具体的なイメージを掴むことで、上記資料では不明確であった部分も明確となり、依頼者の話す内容も非常に理解しやすくなったことから、実際に現場に行くということも非常に重要であると実感した。

### 最後に

これまで、書面の推敲、幅広い知識及び事件現場に行くことが弁護士にとって重要であることを述べてきた。もちろん、時間等の兼ね合いの中で実践していく必要があるが、少なくとも今後、その重要性を認識しながら日々の業務をこなし、経験していくことによって、弁護士としての実力を少しでも向上させていきたいと思う。